

HEPATOLOGY NEWS

肝胆膵病態内科学ニュース

第1号 2007年4月 発行

// 発刊のことば

このたび、大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学の活動を広くお知らせするために、教室情報誌である Hepatology News を発刊することにいたしました。年4回程度発刊し（季刊）、教室の人事異動、基礎的・臨床的研究の取り組み課題、学会での発表、掲載された論文の要旨、予定されている研究会や学会の案内、治験へのご協力の要請、さらには関連病院やご開業されている先生の情報などをお知らせしたいと思っております。また、PDFとしてメール配信することも予定しておりますので、ご希望の先生はメールアドレスをお教えいただきたいと存じます。さらには、この Hepatology News を通じて医局運営への要望やご批判を頂戴できれば誠に有り難く存じます。

肝 肝胆膵病態内科学講座は、医学部の大学院医学研究科の再編に伴い平成13年に内科学第3講座を母体として新設されました。消化器器官制御内科学講座（荒川哲男教授）と兄弟関係の大学院講座です。昭和43年、1968年に山本祐夫先生が創設された第3内科はその名を日本中に轟かせた肝臓病学のメッカとなり、以降も第3内科は国の内外に対する新情報発信基地となってきました。また、肝臓病に関連する教室の教授を輩出してきており、まさに質の高い研究者のインキュベーターとなっています。平成19年1月1日に、その第3内科の血統を引き継ぐ肝胆膵病態内科学講座の初代主任教授が決定したことで、7年ぶりに組織一丸となることができ、今まさに再出発の時を迎えています。

肝 肝胆膵病態内科学講座も第3内科のモットーである「仕事を、そして日々を、和気あ



PROFILE

河田 則文

(かわだ のりふみ)

昭和61年 大阪市立大学医学部卒業

昭和61年 大阪市立大学医学部第3内科入局

平成19年 大阪市立大学大学院

肝胆膵病態内科学 教授

いあいと楽しもう」を引き継いでいます。肝胆膵病態内科学講座は医局一丸となって、肝胆膵疾患に関する新しい情報を世に発信してゆきたいと思えます。それが、疾病の診断や治療に応用され、患者さんの福祉に役立ち、医学の進歩に貢献することに繋がれば最高の喜びであり、一步一步前進してゆきたいと思っております。

この Hepatology News が読者と医局との情報交換に役立ち、より緊密な組織運営の一助になれば幸いです。

平成19年3月吉日



// 教員紹介 (1)

准教授 坂口浩樹

昭和 60 年卒の坂口浩樹です。私は第 3 内科に入ってから関先生の指導の下で、肝臓の形態学の研究をするようになりました。臨床面では関先生の指導で腹腔鏡を研修し、また、金先生の指導で超音波下の肝生検とエタノール注入療法を研修しました。このように肝臓の形態学と肝生検および肝臓の局所治療を始めましたが、これが現在までのライフワークとなりました。現在は「肝臓の最新治療」のコーナーでも述べましたが、腹腔鏡的治療に力を注いでいます。また、超音波下の経皮的局所治療では、超音波で見えない肝臓に対する効果的な局所治療法を開発することが私の中で大きな課題として存在しています。現在までにフルオロ CT を用いて、CT 透視下に肝を穿刺する方法や、経皮経肝的門脈内炭酸ガス注入法を用いて腫瘍を可視化する試みを行ってきました。再検では real-time virtual sonography を用いて超音波ガイド下に腫瘍を穿刺する方法や第二世代の超音波造影剤を使用する方法など森川先生の協力を得て進行しています。

余談ですが、最近軽い運動（ジョギング）を始めました。理由は、降圧薬を 2 種類服用しているにもかかわらずどんどん血圧が上がってきていること。2 つ目は、肝臓の世界でも NASH の概念の導入以降、肥満が問題視されてきており、患者指導のためにもダイエットする必要があること。以上の 2 点のためですが、朝早く目が覚めるようになったことも一つの要因です。朝に家の近所を 20-30 分、週に 5-6 回ジョギングしています。まだ始めて 3 ヶ月弱ですが、血圧は劇的に下がりました。降圧薬の追加どころか 1 種類減量することも考えるレベルになり、非常に喜んでます。体重は 1 kg 減った程度ですが、ベルトの穴は一つ縮まりました。また、



PROFILE

坂口 浩樹

(さかくち ひろき)

昭和 60 年 大阪市立大学医学部卒業

昭和 60 年 大阪市立大学医学部第 3 内科入局

平成 19 年 大阪市立大学大学院

肝胆膵病態内科学 准教授

軽い運動にはストレス解消の効果も大きいようです。まさに一石三鳥と言えます。以上、最近の様子についても書きましたが、ジョギングの効果を実感しましたので、皆様にもお勧めしたくご紹介致しました。

[学会・研究会評議員]

日本消化器病学会評議員・近畿支部評議員、日本消化器内視鏡学会学術評議員・近畿地方会評議員、日本肝臓学会西部会評議員、マイクロウェーブサージャリー研究会評議員

[学会認定医・専門医・指導医]

日本内科学会指導医・専門医、日本消化器病学会指導医・専門医、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医、日本肝臓学会指導医・専門医

[研究会世話人・委員等]

腹腔鏡的治療研究会世話人、日本消化器内視鏡学会試験問題作成小委員

// 教員紹介 (2)

講師 武田 正

専門はウイルス性肝炎の治療、インターフェロンの抗ウイルス・抗腫瘍作用、輸血感染症、院内感染防御、超音波医学などである。入局後、故黒木哲夫教授の指導を受け、ウイルス性慢性肝炎のインターフェロン治療の研究に携わった。当初、B型慢性肝炎のインターフェロン治療の治験が行われており、清水豊先生とともにインターフェロン誘導酵素である2-5ASの研究を行ったのが最初である。多数の症例をもとに治療効果にかかわる因子を患者及び薬剤の面から検討した。その後C型肝炎に対するインターフェロン治療も行われるようになった。インターフェロンの肝癌細胞増殖に与える影響の研究を大学院にておこなった。また、故黒木先生から輸血部の運営と大学および院内の感染防御の仕事を任せられ、学内・院内のB型肝炎ワクチン接種、院内の血液汚染事故の対応を行ってきた。ICDを取得し院内のICTに所属している。輸血に関しては輸血学会推薦によって認定医試験を経て平成12年1月に日本輸血学会認定医を取得し、大阪市立大学医学部附属病院を認定医制度指定施設に初めて申請し認可された。日本輸血細胞治療学会(旧日本輸血学会)では輸血感染症分野を専門に活動している。認定医養成のための「改訂版日本輸血学会認定医制度指定カリキュラム」(2003)において肝炎ウイルス(HBV・HCV)の項の執筆を担当している。また、厚生労働省の「輸血用血液及び細胞療法安全性に関する研究」研究班に参加し当院は輸血副作用監視指定施設に指定された。全国の病院の輸血後肝炎の集計の仕事を担当させていただいている。

超音波においては朝井均先生(現大阪教育大学教授)の指導のもと研鑽を行った。超音波の技術は日々進歩しており、造影超音波剤の



PROFILE

武田 正

(たけだ ただし)

昭和59年 大阪市立大学医学部卒業

平成4年 大阪市立大学医学部第3内科 助手

平成9年 大阪市立大学大学院

肝胆膵病態内科学 講師

開発もあり診療において占める割合は非常に大きい。日本超音波医学会指導医として認定技師、認定医の育成にも努めてきた。平成19年10月の日本超音波医学会第34回関西地方会における会長に推薦いただき現在準備を行っている。

[学会評議員]

日本輸血細胞治療学会(旧日本輸血学会)評議員・近畿支部評議員、日本消化器病学会評議員・近畿支部評議員、日本肝臓学会評議員・西部会評議員、日本超音波医学会評議員・関西地方会運営委員、日本内科学会近畿支部評議員

[学会認定医・専門医・指導医]

日本輸血学会認定医、日本内科学会指導・認定医、日本肝臓学会指導医・認定医、日本消化器病学会指導医・認定医、日本超音波医学会認定超音波指導医・認定超音波専門医、インフェクションコントロールドクター(ICD)、日本医師会認定産業医

[研究会世話人]

大阪超音波研究会、大阪腹部超音波研究会、関西超音波造影剤研究会

// 教員紹介 (3)

講師 榎本 大

本年1月に就任された河田新教授のもと新生肝胆膵内科を盛り立てるべく日夜頑張っています。病棟を受け持つ医師の間ではいつの間にか長老に近くなり、3年目の新入医局員の先生とペアで患者さんを担当しています。入院患者さんの多くは肝細胞癌の方ですが、最近「クールチップRFシステム」が導入されたこともあり、ラジオ波焼灼療法の件数もますます増やしていきたいと思っています。また徐々に胆道癌・膵癌に対する化学療法の症例も増えて来ています。

外来は月・金の2コマ担当させて頂いています。B型肝炎に対するエンテカビルやC型肝炎に対するPEG-IFN・リバビリン療法を積極的に行っています。また肝移植後の抗ウイルス治療を担当しています。臨床研究としては、主として若年のB型慢性肝炎に対するエンテカビル/IFN sequential therapy、高齢・難治性のC型慢性肝炎に対する発癌抑制を目的としたPEG-IFNの少量長期療法、肝細胞癌根治療法後のPEG-IFN・リバビリン/ビタミンK2併用療法等の有用性の検討に取り組んでいます。

研究面では2004年から2005年にかけてC型肝炎研究の第一人者であるテキサス大学のStanley M. Lemon博士の下に留学する機会を頂きました。留学中は培養細胞の中でHCV RNAレプリコンを増幅させる系を用いて自然免疫機構の解明や新規抗ウイルス薬の効果の検討を行っていました。現在はマイクロアレイなどの手技を用いて抗ウイルス治療の効果を規定する遺伝的・免疫的因子の解明に取り組んでいます。



PROFILE

榎本 大

(えのもと まさる)

平成5年 大阪市立大学医学部卒業

平成5年 大阪市立大学医学部第3内科入局

平成11年 大阪市立大学大学院医学研究科

博士課程修了

平成16年~ テキサス大学

Stanley M. Lemon 博士の下に留学

平成18年 大阪市立大学大学院医学研究科

肝胆膵病態内科学 講師

[学会活動]

日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員、日本肝臓学会肝臓専門医、日本消化器内視鏡学会認定医、日本超音波医学会、日本インターフェロン・サイトカイン学会

// 教員紹介 (4)

講師 森川浩安

本年1月より大学勤務となり、4月より肝胆膵病態内科学講師を拝命致しました。7年ぶりに大学の土を踏み、未だその生活に慣れていないのが現況です。以下が私の主な略歴です。

平成5年に、鹿児島大学医学部を卒業し、第3内科に入局しました。卒後研修は大阪市立総合医療センターにて行い、現在の卒後研修システムの先駆けとなるような他科ローテーション（消化器内科、一般内科、麻酔科、救命救急、ICU）を経験しました。その後大阪市立大学医学部附属病院研究医、医学研究科大学院生となり、故黒木哲夫教授、塩見教授（核医学）の指導のもとに肝臓病の臨床研究に携わり、さらに金田研司教授（解剖学）、西口修平助教授（現兵庫医科大学教授）の指導にて動物肝炎モデル作成の基礎的研究を行ってまいりました。博士課程終了後は地域機関病院であるベルランド総合病院、東住吉森本病院、りんくう総合医療センターに勤務いたしました。各勤務病院は、第3内科の派遣先では関連病院の核となるような病院で院卒後も up to date な肝疾患診療に携わることができました。昨今の医療環境の変遷のなか2病院が関連先で無くなったことは残念なことです。

大学では、肝癌の診療を柱に肝疾患全般の診断、治療を行っております。臨床研究では肝疾患のデータシート作りを行っていく予定です。肝癌の局所治療も PEIT から RFA へと変わり、また慢性 C 型肝炎治療も IFN 療法から PEG-IFN 併用療法に進展し、肝疾患を取り巻く環境も進歩しています。それらに見合ったデータシート作りの必要性を痛感しております。先日、大学病院では病院機能評価受審があり、外来診察室を整理していたところ、膨大な肝カルテがでてまいりました。どれも丁寧に書き込まれた



PROFILE

森川 浩安

(もりかわ ひろやす)

平成5年 鹿児島大学医学部卒業

平成5年 大阪市立大学医学部第3内科入局

平成19年 大阪市立大学大学院

肝胆膵病態内科学 講師

すばらしいもので廃棄することはできませんでした。あらためて諸先輩のこれまでのご努力を引き継いだデータベースになればと願い、大変な仕事になると考えています。

[学会活動]

日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本医師会認定産業医

// 教員紹介 (附属病院中央部門輸血部)

大阪市立大学医学部附属病院

中央部門輸血部 准教授 田守昭博



PROFILE

田守 昭博

(たもり あきひろ)

昭和 61 年 大阪市立大学医学部卒業

昭和 61 年 大阪市立大学医学部第 3 内科入局

平成 19 年 大阪市立大学医学部附属病院

中央輸血部門 准教授

本年、4月より輸血部准教授として病院中央部門と大学院医学研究科肝胆膵病態内科学との兼務に就きました。輸血部は故黒木先生が兼務されて以来、西口先生（現兵庫医科大学教授）、関先生と肝胆膵内科の諸先輩が執務された部署です。我が国における輸血事業と肝炎ウイルス感染対策との歴史は、そのまま慢性肝疾患対策に結びつくものであり、本輸血部からも有益な成績が報告されています。輸血部は検査技師3名の他非常勤技師と肝炎センター補助研究員から構成され、輸血業務とウイルス肝炎の調査・予防を2本柱に運営しております。現在、輸血管理料の獲得を目標に病院各部署への協力をお願いしております。この場をお借りして輸血剤の適正使用（特にアルブミン使用量/赤血球使用量比2未満が課題です）をお願い致します。

次に私の研究テーマについて紹介致します。以前から継続しております切除肝癌組織を用いた癌の生物学的特性の解析は、肝胆膵外科の全面的な協力の下に順調に進んでおります。これまでポリアミン代謝亢進、癌抑制遺伝子IRF-1の不活化、ミトコンドリア遺伝子異常、遺伝子メチル化などの成績を報告しております。最近ではB型肝炎ウイルスによる発癌メカニズムについてHBV DNA組み込みの標的遺伝子のひとつを同定しました。もう一つ興味を持っている事は患者個々による病状経過の相違です。例えばウイルス感染にしても急性肝炎にて治癒する例と慢性肝炎へ移行する例が存在します。これまでの研究はウイルス側因子を解析することで進められてきました。今後は宿主（患者）側の要因を解析することによりさらなる病態解明

や予防法開発につながるものと考えます。

輸血部と肝胆膵内科学の2足のワラジを履くことで新たな展開を生むように努力していきたいと思っております。

[学会評議員]

日本肝臓学会評議員・西部会評議員、日本消化器病学会評議員・近畿支部評議員

[学会認定医・専門医・指導医]

日本輸血細胞治療学会認定医、日本内科学会認定医、日本肝臓学会指導医・専門医、日本消化器病学会指導医・専門医、日本消化器内視鏡学会指導医・認定専門医、日本医師会認定産業医

[その他、委員等]

大阪市成人検診委員会肝炎ウイルス検査部会検診精度研究班委員、大阪府肝炎肝がん対策委員会委員

// スタッフ紹介 (1)

岩井秀司

私は肝癌治療、中でも経皮的及び腹腔鏡的局所療法をメインに行っています。肝癌の局所療法はラジオ波焼灼術の導入以後、確実にその適応を広げています。特に2cm以下の肝癌であれば肝切除と同等の治療成績を残しています。しかしながら、肝癌の存在部位により通常の局所療法が施行困難な症例は多く、このような肝癌をどう扱うのか日々悪戦苦闘しています。

実際には肝表面に存在する肝癌の場合、通常の局所療法では腹腔内出血、腹壁損傷が危惧されるため、腹腔鏡的治療を行っています。或いは横隔膜直下に存在する肝癌には、人工胸水を併用して局所療法を行っています。こ



PROFILE

岩井 秀司

(いわい しゅうじ)

平成7年 大阪市立大学医学部卒業

平成7年 大阪市立大学医学部第3内科入局

これらの方法により、肝癌を十分に、かつ安全に治療できます。

— のように肝表面或いは横隔膜直下に存在し、通常の局所療法に難渋する症例があれば、一声掛けて頂ければと思います。

小林佐和子

平成9年卒

平成11年4月～平成15年3月

大学院生理系解剖学教室

ラット線維化肝における肝星細胞とTリンパ球のアポトーシスとの関連についての研究

平成15年4月～18年12月

大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学 前期・後期研究医

平成19年1月～3月

りんくう総合医療センター市立泉佐野病院

平成19年4月

大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学 後期研究医



PROFILE

小林 佐和子

(こばやし さわこ)

平成9年 大阪市立大学医学部卒業

平成11年～ 大阪市立大学大学院生理系解剖学教室

平成19年 大阪市立大学大学院医学研究科

肝胆膵病態内科学 後期研究医

外来および病棟にて、肝疾患全般の診療に携わっています。肝臓という臓器は一見地味に思われがちですが、実際は非常にダイナミックであり、全身や他疾患との関わりも強い臓器です。診断・治療においては内科医として

手を出せる範囲も広く、最近ますます興味が湧いてきています。今後さらに知識・技術の向上を目指すとともに、女性としての視点も取り入れながら、臨床および研究に取り組みたいと思っています。

// スタッフ紹介 (2)

藤井英樹

研 究医を拜命して3年間、一貫して脂肪肝の研究を続けています。近年、肝のメタボリックシンドロームである非アルコール性脂肪肝 (non-alcoholic fatty liver disease: NAFLD) や、その進行形である非アルコール性脂肪性肝炎 (non-alcoholic steatohepatitis: NASH) が世界的に注目されています。NAFLD/NASHの病態を基礎・臨床の両面から明らかにし、有用な治療法を開発するのが私の目標です。2005年8月よりNAFLDの症例の登録を開始し、血清保存や生活習慣のアンケート調査を行っています。当科で診断したNASH症例も2007年2月の時点で65名になりました。更に、昨年10月より脂肪肝専門外来(金曜)を開設し、患者教育

安田隆弘

H 16年より前期研究医として外来を1コマ(木曜日)、昨年より病棟係として入退院の管理を行っております。

現 在 大学病院に入院される方の疾患も多岐にわたっており、また重症疾患の受け入れも積極的に行っているため通常の入院患者様の入院待ちが約1~2ヶ月にわたっております。関連病院の先生方にはご迷惑をおかけしておりますが今後はより効率的な病棟運営ができるよう心掛けていきたいと思っております。

ま た、当院ではファイブロスキャンという測定機器を用い非侵襲的に肝臓の線維化を数値化しております。今後肝生検とともに肝の病態把握に有効と思われるので、ご紹介いただいた患者様に対しては積極的に測定を行っていききたいと思っておりますのでよろしくお願



PROFILE

藤井 英樹

(ふじい ひでき)

平成10年 大阪市立大学医学部卒業

平成10年 大阪市立大学医学部第3内科入局

に加え積極的に瀉血療法等の治療を施行中です。NAFLD/NASH症例がありましたら、お気軽にご相談・ご紹介頂ければ幸いです。



PROFILE

安田 隆弘

(やすだ たかひろ)

平成10年 大阪市立大学医学部卒業

平成10年 大阪市立大学医学部第3内科入局

いします。

// コ・メディカルスタッフ紹介



肝胆膵研究員
小川 智弘
(おがわ ともひろ)



肝胆膵研究補助員
森 真美
(もり まみ)



肝胆膵研究補助員
新崎 真弓
(しんざき まゆみ)



肝胆膵研究補助員
谷川 貴子
(たにがわ たかこ)



肝胆膵学外研究員
大橋 道子
(おおはし みちこ)



秘書
高志 ころこ
(たかし ころこ)



秘書
高村 真理
(たかむら まり)

// 外来担当表

平成 19 年 4 月現在

	月	火	水	木	金
1 診	荒川 (消化管全般)	塩見 (肝胆膵)	荒川 (消化管全般)	河田 (肝胆膵)	藤原 (上部消化管)
2 診	河田 (肝胆膵)	田守 (肝胆膵)	小林 (肝胆膵)	羽生 (肝胆膵)	田守 (肝胆膵)
3 診	渡辺(俊) (上部消化管)	斯波 (上部消化管)	樋口 (上部消化管)	樋口 (上部消化管)	渡辺(俊) (上部消化管)
4 診	榎本 (肝胆膵)	武田 (肝胆膵)	森川 (肝胆膵)	森川 (肝胆膵)	榎本 (肝胆膵)
5 診	押谷 (下部消化管)	押谷 (下部消化管)	渡辺(憲) (下部消化管)	谷川 (上部消化管)	十河 (下部消化管)
6 診	安田 (肝胆膵)	富永 (上部消化管)	坂口 (肝胆膵)	富永 (上部消化管)	坂口 (肝胆膵)
7 診	鎌田 (下部消化管)	岩井 (肝胆膵)	岩井 (肝胆膵)	山上 (下部消化管)	藤井 (NASH)
8		岡崎 (ポリープ外来)			
処置(肝)	林	麻植	藤井	中屋	黒岡
総合診療科	山上		山上		谷川

肝癌の最新治療

大阪市立大学肝胆膵内科
准教授 坂口浩樹

肝 癌の治療としては現在以下のものが行われています。

1. 肝切除
2. ラジオ波熱焼灼術
3. マイクロ波凝固療法
4. エタノール注入療法
5. 肝動脈塞栓術
6. リザーバー動注療法
7. 放射線療法
8. 全身化学療法

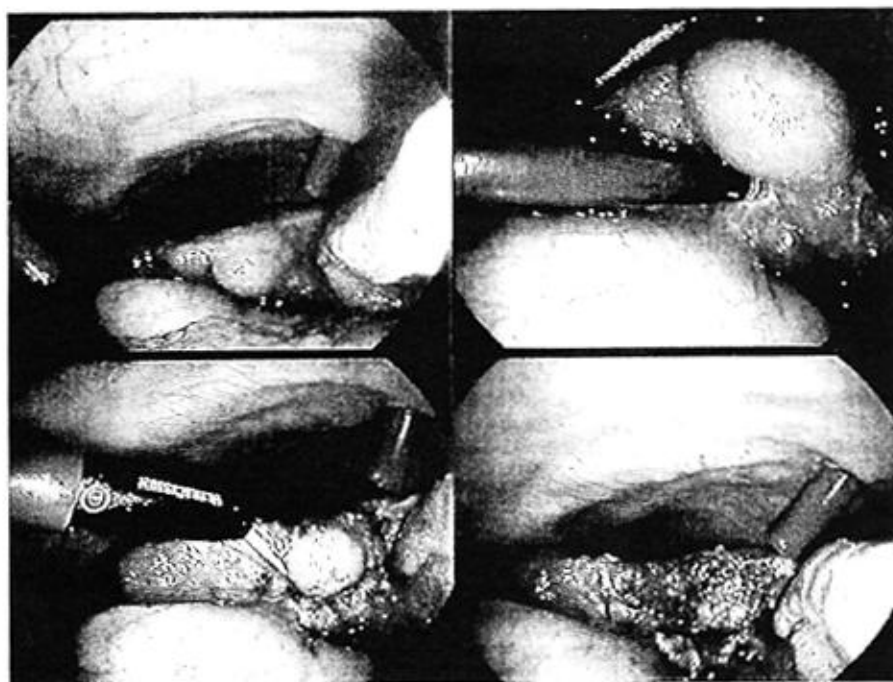
— 中で、当科では腹腔鏡的熱凝固療法（ラジオ波熱焼灼術＋マイクロ波凝固療法）に力を入れて施行してきました。おかげ様で日本でも2-3番の症例数を有するようになりました。腹腔鏡的熱凝固療法では、肝を直視下に

穿刺し治療できるため経皮的治療に比較すると確実性が高いといえます。また、他臓器に接する腫瘍や肝表面の腫瘍の場合、腹腔鏡的治療を用いると他臓器や皮膚の熱損傷を避ける事が可能であり、経皮的治療よりも優れていると考えられます。以上の理由で、腹腔鏡的治療に力を注いできました。当科では、諸先輩方が腹腔鏡下肝生検に力を入れてこられた経緯があります。その努力の蓄積により、腹腔鏡的熱凝固療法が順調に実績を重ねられたものと思ひ、諸先輩方に深謝申し上げます。腹腔鏡的熱凝固療法の技術を基に、1997年から肝細胞癌の腹腔鏡的肝切除術を開始しました。6例の実績をもって高度先進医療を申請し、2004年度に認可されました。認可された当時は、大阪市立大学医学部附属病院で認められている高度先進医療は2件だけであり、3件目の認可となったため、肝胆膵内科の実績として大きな評価を頂きました。現在では大阪市立大学医学部附属病院にて10件の先進医療が認められており、その一部を担っています。

他 の最新治療としては、VEGF(Vascular Endothelial Growth Factor) 阻害薬である sorafenib を用いた治療がトピックスです。sorafenib は欧米の治療により、単剤でも効果が

明らかである事が判明し、早々に治療が中止されたという経緯があり、肝細胞癌患者にとっては夢の薬になり得る可能性があります。この sorafenib を肝動脈塞栓術後に使用するという治療を当科でも施行しており、効果に期待が持てます。

以 上、肝癌の最新治療について述べました。ご質問やご意見をお待ちしています。



治験のお知らせ (詳細は医局にご連絡下さい。)

◆肝硬変◆

C型代償性肝硬変(肝細胞癌既往含む)に対するPEG-IFN α -2a、リバビリン併用療法
 期間:2006年3月~2009年12月
 中外製薬株式会社

◆肝癌◆

- ①血管新生阻害薬によるHCC加療後(TACE後)無増悪期間の延長目的
 期間:2006年4月~2007年9月
 バイエル薬品株式会社
- ②レチノイドによるHCC根治後(外科的切除、RFA後)無再発期間の延長目的
 期間:2005年2月~2009年12月
 興和創薬株式会社

肝胆膵内科、消化器内科(旧第三内科)関連施設一覧表

病院名	〒	住所	TEL	FAX	問い合わせ先
愛風病院	599-8253	堺市深阪2430	0722-78-1111	0722-78-1010	岩田康博
相生病院	544-0024	大阪市生野区生野西3-2-5	06-6731-0201	06-6731-0241	北田恵一
浅香山病院	590-0018	堺市今池町3-3-16	0722-29-4882	0722-32-3787	渡辺芳久
浪速生野病院(旧芦原病院)	556-0025	大阪市浪速区浪速東2-13-19	06-6561-1021	06-6567-2521	斉藤 忍
育和会記念病院	544-0004	大阪市生野区真北3-20-29	06-6758-8000	06-6758-5690	田中基晴
今里胃腸病院	544-0001	大阪市生野区真南3-19-2	06-6752-7531	06-6752-2710	佐伯善彦
大阪医療刑務所支所病院	590-0014	堺市田出井町8-80	0722-28-0145	0722-28-0147	佐々木伸光
大阪掖済会病院	550-0022	大阪市西区本田2-1-10	06-6581-2881	06-6584-1807	山森一樹
大阪社会医療センター	557-0004	大阪市西成区狭之茶屋1-3-44	06-6649-0321	06-6645-5410	針原重義
大阪市立十三市民病院	532-0034	大阪市淀川区野中北2-12-27	06-6150-8000	06-6150-8680	根引浩子
大阪市立住吉市民病院	559-0012	大阪市住之江区東加賀屋1-2-16	06-6681-1000	06-6686-1547	新谷真知子
大阪市立総合医療センター	534-0021	大阪市都島区都島本通2-13-22	06-6929-1221	06-6929-2041	岡 博子
大阪府立呼吸器アレルギー医療センター	583-8588	羽曳野市はびきの3-7-1	0729-57-2121	072-958-3291	格谷洋和
大野記念病院	550-0015	大阪市西区南堀江1-26-10	06-6531-1815	06-6536-6390	川村千佳
北条病院	593-8302	堺市北条町2-2-36	0722-77-1120	0722-70-3426	中村幹男
神戸朝日病院	653-0801	神戸市長田区鷹王町3-5-25	078-612-5151	078-612-5152	金 守良
小杉記念病院	582-0018	柏原市大泉1-5-32	0729-71-7771	0729-71-0088	横川 正
市立柏原病院	582-0005	柏原市法善寺1-7-9	072-972-0885	072-972-1011	佐藤博之
正風病院	591-8002	堺市北花田町1-4	0722-55-0051	0722-55-8573	中谷守男
ツカサギ記念病院	670-0053	姫路市南車崎1-5-5	0792-94-8555	0792-98-7722	白石一郎
長吉総合病院	547-0016	大阪市平野区長吉長原1-2-34	06-6709-0301	06-6709-5920	大谷健二郎
馬場記念病院	592-8555	堺市浜寺船尾町東4-244	0722-65-5588	0722-65-6663	原 順一
PL病院	584-8585	大阪府富田林市新堂2204	0721-24-3100	0721-25-9405	福田勝彦
東住吉森本病院	546-0014	大阪市東住吉区鷹合3-2-66	06-6606-0010	06-6606-0055	宮城邦栄
藤井寺市立藤井寺市民病院	583-0012	藤井寺市道明寺2-7-3	0729-39-7031	0729-39-7068	丸毛俊明
府中病院	594-0076	和泉市肥子町1-10-17	0725-43-1234	0725-43-3995	山口誓子
まちど胃腸病院	557-0001	大阪市西成区山王1-1-15	06-6649-1251	06-6646-0408	蝶野慎治
守口生野病院	570-0005	守口市八雲中町1-3-8	06-6906-1100	06-6906-4507	仲谷信治
若草第一病院	579-8056	東大阪市若草町1-6	0729-88-1409	0729-85-6731	野村 勉
わかさ亀岡リハビリテーション病院	574-0012	大東市大字龍岡1580	072-869-0016	072-869-0135	倉井圭子
若弘会病院	556-0005	大阪市浪速区日本橋4-7-17	06-6632-0358	06-6644-1099	城村直登
山本第三病院	557-0063	大阪市西成区南津守4-5-20	06-6658-6611	06-6652-9553	清水泰夫

// 学会・研究会のお知らせ

- 第104回 日本内科学会総会/期間：4月3日～4月5日
(於：大阪国際会議場・大阪)
- 第27回 日本医学会総会/期間：4月6日～4月8日
(於：大阪国際会議場・大阪)
- 第93回 日本消化器病学会総会/期間：4月19日～4月21日
(於：青森市文化会館・青森)
- 第73回 日本消化器内視鏡学会総会/期間：5月9日～5月11日
(於：新高輪プリンスホテル・東京)
- 第80回 日本超音波医学会学術集会/期間：5月18日～5月20日
(於：城山観光ホテル・鹿児島)
- 肝臓病講座 ～B型肝炎を中心に～/期間：5月20日
(大阪市立大学医学部付属病院5F講堂・大阪【主催 当教室】)
- 第43回 日本肝臓学会総会/期間：5月31日～6月1日
(於：ホテルグランバシフィックメリディアン・東京)
- 第43回 日本肝癌研究会/期間：6月21日～6月22日
(於：東京ドームホテル・東京)
- 第14回 肝細胞研究会/期間：6月22日～6月23日
(於：城山観光ホテル・鹿児島)
- 第14回 日本門脈圧亢進症学会/期間：9月6日～9月7日
(於：杉の井ホテル・大分)
- 第87回 日本消化器病学会近畿支部例会/期間：9月8日
(於：大阪国際交流センター・大阪【主催 北野厚生】)
- 日本肝臓学会 Single Topic Conference「肝不全」/期間：9月28日～9月29日
(於：ホテル安比グランド・岩手)
- 第34回 日本超音波医学科医関西西地方会学術集会/期間：10月13日
(於：大阪国際交流センター・大阪【主催 武田 正】)

// 編集後記

Hepatology news 第一版(紙版)を発行することができました。今後は電子版(メール配信)を先行させ、続いて紙版発行としていく予定です。新しい肝胆膵病態内科学教室と共に成長、洗練されていくことを願い叶えていきたいと考えております。

(森川浩安)

HEPATOLOGY NEWS

肝胆膵病態内科学ニュース

第1号 2007年4月 発行



発行者 / 大阪市立大学大学院医学研究科
肝胆膵病態内科学

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

TEL: 06-6645-3811 FAX: 06-6645-3813

編集委員 / 森川浩安